

「北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」策定の背景と目指す方向

上田 泰史 (北海道農政部食の安全推進局畜産振興課)

1. 北海道酪農・肉用牛生産の現状及び課題

本道の酪農・肉用牛生産は、食生活の多様化等による需要の拡大と恵まれた土地資源を背景に順調な発展を遂げ、我が国最大の畜産物の生産・供給基地として、また本道農業の基幹部門として、地域経済を支える基幹産業に成長してきた。

しかし、酪農・肉用牛生産の規模拡大等により畜産経営における労働過重や労働力不足の問題が顕在化する中、経営主の高齢化や後継者不足などにより農家戸数が年々減少を続けており、労働環境の改善や新規参入の促進を通じた担い手の確保などが課題となっている。

また、担い手の高齢化、労働力不足、経営規模拡大などにより、飼料作付面積が伸び悩むとともに、家畜排せつ物の自己経営内・地域内における活用が困難となりつつある中、経営体質の強化、畜産環境問題への対応及び食料自給率向上の観点から、自給飼料基盤に立脚した経営体の育成を図り、資源循環型の酪農・肉用牛生産を進めることが重要な課題となっている。

さらに、近年のBSEや食品の不正表示問題の発生などを契機として、食品の安全・安心に対する消費者の関心がかつてないほど高まっており、消費者への的確な情報提供、生産・加工・流通の各段階におけるリスク管理の徹底等により、消費者の求める安全な畜産物を生産・供給することが求められている。

このような現状及び課題を踏まえ、「北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」においては、本道の恵まれた自給飼料基盤を十分に活用した酪農・肉用牛生産を基本とし、畜産物に係る安全・安心の確保、家畜排せつ物の適正な管理と利用の促進、飼養管理技術の向上・高度化等によるコスト低減、

コントラクター等の活用等を通じた省力化、担い手の育成確保、家畜改良等に関する施策や取組を展開することにより、「土・草・牛」が調和したバランスのとれた、人と家畜と環境にやさしい畜産経営の確立を図るとともに、今後とも、本道の酪農・肉用牛生産が自然環境の保全等の機能を維持・増進しつつ、基幹産業として持続的に発展し、国民に信頼されるクリーンで良質な畜産物を安定的に供給することを目指す。

2. 基本的な推進方向

- ・放牧などを活用した「土・草・牛」が調和する資源循環型酪農・畜産の確立
- ・家族経営を中心に据えた人と家畜と環境にやさしい生産構造の確立
- ・消費者に信頼される安全・安心で良質な畜産物の安定供給

3. 基本的な推進方策

- ・自給飼料基盤に立脚した畜産経営の育成
- ・畜産物に係る安全・安心の確保及び食育の推進
- ・家畜排せつ物の適正な管理と利用の促進
- ・飼養管理技術の向上等の推進
- ・多様な経営体の育成、担い手の育成・確保
- ・道産畜産物の需要及び販路の拡大

4. 主な目標数値

生乳の生産数量並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数等の目標については、道産飼料の活用を基本として、①飼料基盤の強化、②担い手の育成・確保、③家畜排せつ物の適正な処理・利用、④流通の合理化、⑤道産畜産物の需要拡大等の道内の酪農・畜産が抱えている諸課題が解決された場合に、

実現可能な目標として設定。

ア 飼料

区 分	飼料作物 作付面積 千ha	10a当たり 生産量 t	飼 料 自給率 (%)	粗飼料 自給率 (%)
現在(15年度)	610.7	3.38	56	96
目標(27年度)	646.5	4.17	66	100

イ 生乳生産量及び乳牛

区 分	総 頭 数		経産牛1頭当たり 年間搾乳量 kg	生乳生産量 万t
	千頭	うち経産牛 千頭		
現在(15年度)	864	497	7,730	386
目標(27年度)	937	560	8,600	482

ウ 肉用牛

区 分	総 頭 数		
	千頭	肉専用種 千頭	乳用種 千頭
現在(15年度)	447	124	323
目標(27年度)	688	215	473